HOSEI University
よき師　よき友
つどひ結べり
Vol.6　通巻22号

経営学部 同窓会会報

発行
法政大学経営学部同窓会
〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
ボアソナード・タワー17階経営学部資料室
http://www.houseikeieidousoukai.com/

55・58年館のお別れイベント「55・58 フェアウェル Days」が開催されました

2019年2月23日（土）、24日（日）に市ケ谷キャンパスで、55・58年館のお別れイベント「55・58フェアウェル Days ～55・58年館の〈最終講義〉」が開催されました。

本イベントは、長らく学びの場として利用されてきた55・58年館全館の解体工事が始まるにあたり、55・58年館の記憶を本学の未来に受け継ぐためのお別れイベントとして開催したものです。当日は55・58年館で学生生活を過ごした卒業生や在学生、教職員など、二日間で約2，800人が来場しました。

館内の出展企画では、懐かしい写真や歴史的資料の公開、55・58年館の設計者である大江宏本学教授（当時）の企画展示や講演会のほか、懐かしの食堂メニュー「バクバクランチ」や「教職カツカレー」、「法政ランチ」が数量限定で販売されました。屋上や55・58年館を背景に記念撮影をする方々や、在学当時を語らう声、資料や展示物を家族連れでゆっくり見学する卒業生の姿が見られ、会の最後は、自身も55・58年館で学んだ田中優子総長からのご挨拶と応援団のデモンストレーションで、「最終講義」の幕を閉じました。

なお、55・58年館解体工事は2019年3月から始まります。

本イベントは、2020年春の開設を予定している「HOSEIミュージアム」のプレ企画として開催されましたが、同ミュージアムでは55・58年館の廃材を利用した備品を設置するなど、本学の記憶を受け継いでいく展示やスペースづくりを行う予定です。

（法政大学FBより転載）

あばよ55・58年館

130余年の伝統有る我が法政大学は、東京大空襲で破壊され、戦後は焼け野原から再出発し、今日驚異的な大躍進を遂げている。この推進エンジンの役割を、大内総長・大江教授合作の『55・58年館』が果たした。

他大学の西洋大学複製子校舎群とは異なり、我が55・58年館はガラスのカーテン＝ウォールが〝日本家屋の「障子」〟を彷彿させる「オリジナルなデザイン」となっており、このファサードが戦後長きに渡り法政大学の顔となったのである。

個性的な表情の校舎は、授業以外にも色々な使い方が出来た。昭和の記憶では、大内山側のスロープは運動部のトレーニング場、1階学生ホールは諸種サークルの溜り場、11月下旬には自主法政祭に貢献し、まさに24時間365日、55・58年館はフル稼働していた。そして、どのような使い方をしても決して壊れなかった55・58年館は、世界のどこでも生きていける『タフな卒業生』を多数輩出した。ファサードが大内山校舎に継承される事は、我々の記憶のアイコンとなる。大学当局の「粋な計らい」に感謝したい。

副幹事長　藤野　晋（1987年卒）

５１１教室は、５５・５８年館最大の座席数を誇った教室でした。

学生ホールはサークルのたまり場になっていた時期もありました。

いつ失われてしまったのか、跡だけになってしまったフロア表示です。

５８年館1Fカウンターのところの窓。ステンドグラスがきれいです。

大内山校舎竣工

大内山校舎が竣工しました。

地下1階、地上8階建の建物となり、55・58年館の代替施設として建設されました。

1階に学部事務室、2階にグローバル教育センター、3階に通信教育部と教授室、4階以上が教室となっています。外側は55・58年館を模したデザインとなり、内部は白を基調とした建物で明るい雰囲気です。太陽光が降り注ぐ南側の窓からは、靖国神社の緑が目に入り、心地良い気分にしてくれます。このような素晴らしい建物で学生生活を送れる学生たちは羨ましい限りです。大いに学生生活を謳歌してほしいと思います。

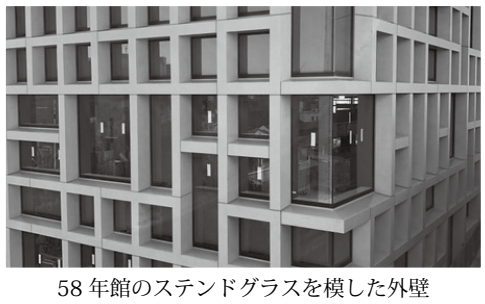
我々卒業生にとって55・58年館は思い出深い建物でしたが、今後の学生たちにとってはこの大内山校舎が、これから学生生活を送っていくにあたり、かけがえのない建物となっていくことでしょう。

大内山校舎竣工後は、いよいよ55・58年館の取り壊しとなります。取り壊し後はキャンパス中央に学生たちが憩う広場が出現し、大内山校舎はその存在が際立つ建物となるはずです。新旧の建物が混在する現在の市ヶ谷キャンパスの姿を見られるのも、あと僅かです。この貴重な変わりゆくキャンパスの姿を今後も見つめていきたいと思います。

倉林　昭浩（1985年卒）

55・58年館を彷彿とさせる廊下

大内兵衛元総長の筆による論語の一説



58年館のステンドグラスを模した外壁

2013年度（2014年3月卒業）経営学部ご卒業の皆さまへ 所属変更のお願い

～ このページは**懐かしい先生方…。　2013年度（2014年）卒業祝賀会の様子**を掲載します ～

２０１８年末から「（一社）法政大学校友会（以降 校友会）」より既にお知らせが届けられているかと存じますが、皆さまは大学の卒業生組織である校友会に終身会員として、卒業年の「２０１３年 年度同期会員」という名称で登録されています。「２０１３年 年度同期会員」の登録は、校友会規定により〝登録後5年を経過すると解散〟となり、その後は校友会に参加している各パートナー組織（各学部同窓会・各都道県組織など）へ所属変更となります。

「経営学部同窓会」は学部卒業生の集まりとして24年前に創設され、校友会パートナー組織の一員として独自の活動を行っています。この機会に是非、校友会パートナー組織である「経営学部同窓会」への所属変更をお願いする次第です。

経営学部同窓会
会長　岩井　昭

「ゼミの卒業生と会い思ったこと」

２０１３年度経営学部長
経営学部経営戦略学科教授
横内　正雄

岩井昭同窓会長から原稿を依頼され、少しばかり近況報告を書くことにしました。２０１３年度まで学部長を務めた後、２０１４～１６年度に学生センター長（かつての学生部長）、２０１７～１８年度に学生相談室長と、おもに学生の正課外の活動に対する支援を担当してきました。この５年間は、日常的なサークル活動や大学祭への支援のみならず様々な事件や事故への対応（北海道でのサイクリング部の事故や軽井沢でのバス事故など）、ダイバーシティへの対応（障がい学生やＬＧＢＴへの対応など）に追われました。学生の課外活動の支援はマニュアルのないものですから、単に学生への支援だけでなく保証人との対応が必要なときもあり、気の置けないことが多くありました。というわけではありませんが、この４月から１年間の研究休暇（サバティカル）を取らせていただくことにしたところです。

私が法政大学に赴任して今年度で28年目になります。定年も近づいてきたせいか、あまり卒業生との付き合いがなかったのが、このところゼミの卒業生からしばしば連絡をもらうようになりました。卒業以来始めて連絡をくれる卒業生もおり、今年の初めは新年会と称して懐かしい面々と飲みに行ったりもしました。また、社会人大学院を受験したいがどうしたらよいのか、などといった相談もあります。みなさん数年ぶりに法政大学を訪れ、新校舎（富士見ゲートと大内山校舎）が出来たキャンパスの変わりように驚くとともに、55・58年館での講義を懐かしく語っていました。みなさんから「大学の時にもっと勉強しておけば良かった」、「先生の講義が役立っています」と言われると、「そうだろう」と思う一方でこそばゆく感じるところもあります。

やはり、卒業後5年から10年経つと仕事にも慣れ、次第に大学生の時を懐かしく思うようになる頃かと思います。その時に何らかの形で大学との繋がりを持つことを考えたらいかがかと思っています。２０１４年３月以降の卒業生のみなさんは、卒業と同時に一律に法政大学校友会の年度同期会に所属することになっています。そして、５年間はこの年度同期会に所属するものの、その後はこの同期会は解散され、校友会を構成する別の同窓会組織に所属することが出来ることになります。そこで大学との繋がりの一環として、法政大学経営学部同窓会に所属の変更手続きをすることをお勧めします。とりわけ、今年度は経営学部設置60周年にあたり、様々なイベントが予定されており、経営学部同窓会の一員としてこれに参加するのはいかがでしょうか。

「今こそ出発点 いま頑張らずに いつ頑張る！」

経営学部市場経営学科教授
林　直嗣

私が１９７９年度に法政大学に奉職して以来40年が経ちます。専攻は理論経済学であり、担当科目のミクロ経済学の授業では例年５００～７００名、マクロ経済学の授業では１００～２００名の学生諸君に聴講して頂きました。もう一つの専攻が金融論であり、１９９８年度から担当科目として７００～９００名の学生諸君に聴講して頂きました。演習・ゼミでもできるだけ多くの意欲ある学生を受け入れ、経済や金融、情報処理の基礎理論と共に実践的応用分析も意欲的に勉強して頂きました。実に多くの法大生の諸君が、例年私の授業を熱心に聴講して頂き、実社会に出て大いに活躍されていることは、教師冥利に尽きず、感謝の念に堪えません。

私は教師として受講生が面白い、興味が湧く、学びたい意欲が湧く、という主体的学修を生き生きとできるように目指して来ました。担当科目では教科書や問題集・スタディガイドを書いて出版し、ＩＴＣを使ってＷｅｂ教材を作成し、大学設置基準に従って受講生が授業の他に予習と復習もできるように、努力してきました。授業内ではクイズを次々と出し、学生諸君に次々と主体的に解答して頂き、会話しながら双方向のアクティブラーニングを実践して頂きました。文科省は、４年間の学士力の教育内容は知育、体育、技育、徳育の４大教育要素の上に、問題に対する総合的な判断力・解決力が最終目標であると定めています。幅広い教養と深い専門の知識や思考力を総合して社会で役に立つ学修をすることこそ、大学教育の真の理念と言えます。こうした教育を非常に多くの学生諸君から評価して頂き、２０１７年度ベストティーチャー賞の栄誉を頂きましたことは、大変光栄に存じます。

２０１３年には林修氏の「いつやるか？　今でしょ！」が流行語大賞となりました。その約四半世紀前１９８４年、京都大徳寺大仙院の尾関宗園和尚は、「今こそ出発点　いま頑張らずにいつ頑張る！」と言う名言と著書を書かれています。和尚は私が院生の頃から尊敬する人生の師です。ビル・ゲイツ、ジョブズ、ザッカーバーグなど著名な大実業家は学生時代に起業しており、青年こそ自由な創造力の宝庫です。それを実現する実践力こそ「今こそ出発点」の精神です。この精神で、卒業生の皆様には大いに頑張って下さい。

学生が選ぶ「ベストティーチャー賞」とは？

学生による学生・教員のための「理想的な授業をしている先生を選んで表彰する」という目的で、２０１４年度より実施しされております。学生に「良い先生とはどんな先生か」を考えさせ、また、ベストティーチャー賞を受賞した教員の授業改善の取り組みを学内外に公開することで、多くの教員が授業改善に役立てていただくことで、本学のＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）活動を推進する取り組みの一つです。２０１７年度は、経営学部の林直嗣先生が選ばれました。

2013年度 卒業祝賀会の思い出

２０１４年３月24日（月）午後５時45分から、法政大学市ヶ谷キャンパス富士見坂校舎地下１階富士見坂食堂において、２０１３年度卒業祝賀会が経営学部主催で挙行されました。横内学部長の挨拶により始まり、経営学部同窓会からは岩井会長が卒業生にお祝いの挨拶をされました。

恒例により卒業生の成績優秀者上位10名に対し経営学部からの表彰状と経営学部同窓会から記念品が贈呈されました。上位10名のうち女性が８名と近年の社会世相を反映しておりました。祝賀会最後に、応援団によるパフォーマンスがあり参加者全員が肩を組み法政大学校歌を声高らかに歌い、卒業生の前途を祝しお開きとなりました。同窓会からは岩井会長はじめ５名の常任幹事が出席いたしました。

会費納入のお願い

「経営学部同窓会」は現在、「一般社団法人　法政大学校友会」に所属しております。
法政大学の卒業生の全員が「校友会」に所属していることになりますが、所属している各同窓会では独自に活動及び組織の運営をおこなっております。
「経営学部同窓会」も23年間の歴史のもと、皆さん同窓会員の会費にて活動をおこなってきました。
しかし近年の「経営学部同窓会」の活動のための、会費納入率の低下が否めません。
「経営学部同窓会」は皆さんの会費にて活動をおこなっており、これからも経営学部同窓会の存続・活動のため、皆さんのご協力及び会費の納入を切にお願いする次第です。

経営学部同窓会会長　**岩井　昭**

同窓会のホームページはこちらから・・・。
URL:http://www.houseikeieidousoukai.com/　法政大学経営学部同窓会　検索

住所変更は必ずご連絡下さい！

個人情報保護法により、OB・OGの皆様の住所が大学から入手できなくなりました。
そのため、大学から送られてくる資料内のハガキで変更依頼をしても、同窓会で管理している住所は変わりません。
必ず下記メールアドレスへご連絡ください。

info@houseikeieidousoukai.com

何卒ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

経営学部の現在（いま）

～ このページでは**2013年度（2014年）卒業後の経営学部近況**を紹介します ～

2018年度「実践知大賞」ノミネートの 西川ゼミ

学校法人法政大学（東京都千代田区）と株式会社アーバンリサーチ（大阪府大阪市）は、学生が企画・製作に携わったパーカーを株式会社ＺＯＺＯ（千葉市美浜区）の運営するファッション通販サイト「ZOZOTOWN」にて、２０１７年10月から２０１８年１月まで販売しました。本企画は、ZOZOTOWNで同日より展開される大学とアパレルブランドのコラボレーション企画「６大学×６ブランドスペシャルコラボ」の一環として行われました。

パーカーの商品企画・製作を手掛けたのは法政大学経営学部でマーケティングを学んでいる西川英彦教授のゼミナール生たちです。学生たちは、主なターゲットを同世代の大学生と設定し、同じ学生の目線で見える「ニーズ」を自分たちで考えました。

さらに、実際に商品を販売する際に不可欠な「集客や売り上げをどう伸ばすか」といった視点について企業の担当者からアドバイスを受け、普段ゼミナールで勉強している商品開発を実践的に学べる機会として今回の企画を位置付けました。

商品はプルオーバーのパーカーでリバーシブル仕様になっており、表が「普段用」、裏が「応援用」となっています。「普段用」は街やキャンパスなど、普段の生活シーンで着ることができ、スタジアムなどで学生スポーツを応援する時に裏返して着用すれば、法政大学のスクールカラーでもあるオレンジとブルー（ネイビー）の「応援用」として使用できます。

学生たちは「体育会が盛んな法政大学で、学生が頑張っている姿を応援するためのアイテムを作成しました。パーカーを着て応援席をスクールカラーで覆い、選手たちを一層応援したい」と商品に懸ける思いを語ります。

（法政大学ＨＰより転載）

実践知大賞とは？

「自由を生き抜く実践知大賞」表彰式は、２０１６年に制定した法政大学憲章を体現する教育・研究等の実践を顕彰し、広く共有・発信することによって、憲章に関する理解を深め、法政大学ブランドを更に強化、周知していくことを目的にしたものです。賞の実施は、学部・部局横断の教職員メンバーで構成される「ブランディング推進チーム」が企画・運営し、昨年度に引き続き２回目の開催となりました。今年度は２０１４年度以降に本学の「教員・教諭」「職員」「学生・生徒」が取り組んでいる、法政大学憲章を体現する教育・研究、業務、活動等の実践事例を対象として募集し、30件のエントリーの中から15件に西川英彦教授ゼミナール「法政愛リバーシブルパーカー産学連携プロジェクト」がノミネートされました。

2017年度より始まった 法政大学ブランド茶 「ほうせい茶」を木村ゼミと共同開発

学校法人法政大学（総長：田中優子／以下：法政大学）の子会社である株式会社エイチ・ユー（社長：田中修司／以下：エイチ・ユー）はこのたび、大分県杵築産茶葉を使用し、本学経営学部の木村純子教授ゼミナール（以下：木村ゼミ）とともに製品開発を行った大学ブランド茶「ほうせい茶」の販売を開始しました。

「ほうせい茶」は、法政大学の創立者である金丸鉄（まがね）・伊藤修が大分県杵築市の出身であることから、大分県杵築市の生産組合「きつき茶生産組合」から原料となる茶葉の提供を受けているのが特徴。また製品化にあたっては、経営学部でマーケティングを学んでいる木村ゼミが商品名やパッケージのデザイン、さらにドリンクサンプルからの選定などに協力し、今後は販促企画やマーケティングについても共同で行っていく予定です。

本製品は主たる購買層を法政大学生と想定し、木村ゼミの学生たちがパッケージデザインや製品戦略を検討。ゼミ生以外からもアイデアを豊富に取り入れ、法政大学と杵築のつながりや愛校心の醸成、さらに大学生活の身近な存在となるお茶にしたいという思いが込められています。またパッケージにはメッセージを書き込めるスペースを作るなど、学生ならではの視点が反映されているほか、若い世代に好まれる「すっきりした後味」となっています。

ほうせい茶の製品開発には、木村ゼミの研究テーマである「地理的表示法」や「農産物マーケティング」「地域活性化」などとも合致する点が多く、学生たちは「既存の緑茶飲料に比べどう価値を与えるか」「誰にでも受け入れられる製品にするには」といった課題に手ごたえを感じながら取り組みました。今後は「継続して愛される製品にしたい」「ファンを作り法大生の文化にしていきたい」と、新たな目標に向けた研究を進めています。

販売はキャンパス内の売店や自動販売機を中心として、靖国通り一口坂交差点の市ケ谷キャンパス一口坂校舎内情報発信スペースなどでの販売も予定しており、一般の方のご購入も可能です。

（法政大学ＨＰより転載）

東京六大学野球秋季リーグ戦優勝！ 野球部主将向山基生さんに インタビューしました！

皆さんこんにちは！法政大学野球部が12季ぶりに東京六大学リーグの秋季リーグ戦で優勝を果たしました。そこで、野球部主将の向山基生さん（経営学部４年生）にインタビューを行いました。

Q．「優勝おめでとうございます、優勝を果たしたご感想を聞かせてください。」

A．「伝統ある法政大学野球部で12季振りに優勝できたこと、その勝利に貢献できたことは純粋に嬉しいです。また、チームメイトや力を貸してくださった関係者の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。」

Q．「ありがとうございます。本学の経営学部に進学された経緯を教えてください。」

A．「野球はチームスポーツです。部員全員で野球に向き合い、同じ目標に向かって頑張ることが大切です。チームを強くするために組織学や人的資源のマネジメントを学びたいと思ったことが経営学部を選んだ理由です。」

Q．「大学での学びを野球に活かすことができましたか？」

A．「ＳＳＩコースの授業ではありますが、リーダーシップ論という授業は大変役に立ちました。強いチームを作るためには力強いリーダーが必要です。リーダーシップ論で学んだ意思決定や全体を取りまとめる能力やスキルを野球に取り入れたことで４年生を中心にまとまりのある良いチームを作ることができたかなと思っています。」

Q．「ありがとうございます、これからの目標を教えてください」

A．「卒業後はＮＴＴ東日本硬式野球部で野球を続ける予定です。これからの野球人生をより良いものにするために大学生である今を大切にしたいです。卒業までの残りわずかですが、引き続き野球も勉強も一生懸命頑張りたいと思っています。」

（経営学部広報委員会ＦＢより転載）

2016年度より ＧＢＰ（グローバル・ビジネス・プログラム）を開始

外国人との共生・協働社会が訪れ、大学にとって国際化は不可避な経営課題です。経営学部では、２０１６年９月より英語のみの授業で卒業単位と学位が取れるＧＢＰ（グローバル・ビジネス・プログラム）が開始されました。

「アジアの世紀」と言われる21世紀のグローバルなビジネス社会で活躍し、けん引できる人材として育成するため、英語で行う授業により日本企業のグローバルビジネスを実体験できる科目群で構成されています。募集人員は経営学科10名です。現在33名の学生が学んでいます。日本人以外の主な国籍は、中国８名、中国（台湾）６名、韓国３名、インド２名、メキシコ２名、アメリカ・スウェーデン・タイ・フィリピン・ベトナム・ミャンマー各１名となっています。

「ＧＢＰ（Global Business Program）とは」

経営学部の英語学位プログラム。英語のみの授業により学位取得が可能で、日本企業のグローバルビジネスを実体験できる科目群を設置。

2018 年度　経営学部同窓会　事業報告

1. 東京六大学野球　春季リーグ戦　応援観戦　　2018年5月27日（日）対明治
2. 定期総会・講演会・懇親会　開催　　2018年6月23日（土）　14:00 ~ 18:00
   市ヶ谷キャンパス　富士見ゲート2階Ｇ201教室
   総会（14:00〜15:00）
   　2018年度　事業報告及び決算承認
   　2019年度　事業計画案及び予算案承認
   　役員選任の承認、名誉会長及び顧問就任の承認
   演芸会　（15:00〜16:00）
   　落語研究会による落語
   懇親会　（16:00〜18:00）
   　市ヶ谷キャンパス　ボアソナード・タワー25階　スタッフクラブ
3. 学部生・同窓会合同広報委員会開催　　2018年7月10日（火）　17:30より
   ＢＴ0701教室で学部生が主体の経営学部広報委員会との合同委員会
4. 東京六大学野球　秋季リーグ戦　応援観戦　　2018年 10月7日（日）対立教
5. 経営学部教員・経営学部卒業職員・同窓会 懇談会　開催
   2018年 10月17日（水）　18:30〜20:30
   ボアソナードタワー26階　ラウンジにて
6. 「落語会と忘年懇親会」を開催　2018年 12月7日（金）　18:30〜21:00
   ボアソナードタワー25階　スタッフクラブにて開催
7. 経営学部卒業生成績優秀者表彰　2019年 3月24日（日）　17:30より
   富士見坂校舎地下1階富士見坂食堂にて、成績優秀者11名を表彰し記念品贈呈
8. 常任幹事会　本年度は10回開催

2019 年度　経営学部同窓会　事業計画案

1. 東京六大学野球　春季リーグ戦　応援観戦　　2019年4月27日(土) 慶應戦
2. 定期総会・懇親会　開催
   定期総会　2019年 6月22日（土）　14:00〜15:00
   　市ヶ谷キャンパス　外濠校舎4階 S405教室
   　2018年度　活動・事業報告及び会計報告
   　2019年度　事業計画案及び予算案承認
   　2019年度　役員選任承認
   懇親会　　同日　15:00〜17:00　富士見坂校舎　地下1階　富士見坂食堂
3. 法政フェア2019への参加　　2019年 9月15日予定
   法政フェア2019にて「経営学部同窓会ブース」を設置し、活動報告や新規入会者勧誘を実施予定
4. 東京六大学野球　秋季リーグ戦　応援観戦　　2019年 10月予定
5. 秩父宮ラグビー場にてラグビー観戦　2019年 11月予定
6. 経営学部卒業職員・教授会・同窓会との懇談会開催　　開催日程未定
7. 「落語会と忘年懇親会」　2019年 12月開催予定
8. 経営学部卒業生成績優秀者表彰　2020年 3月24日（火）　17:30より
   成績優秀者10名を表彰し記念品贈呈
9. 常任幹事会　年度内に随時開催10回程度

*各種行事は適時ホームページに掲載し告知いたします。

2018 年度決算報告

【収入の部】	決算
前年度繰越金	560,018
年会費	369,000
懇親会費	116,000
寄付金	234,138
校友会代行手数料	16,000
受取利息	2
合計	1,295,158

【支出の部】		決算
一般通信費	郵送料	1,266
一般印刷費	コピー代・名刺印刷	9,800
消耗品費	事務用品	194
会報発行費	会報 5 号印刷費	109,620
	同窓会通信 16 号印刷	58,536
	諸雑費	
	計	168,156
会報発送費	会報 5 号発送費	13,961
	同窓会通信 16 号発送	15,744
	計	29,705
総会開催費	懇親会費	84,400
	謝礼	12,000
	計	96,400
忘年会費		69,260
ホームページ運営費		136,800
広告掲載料		36,666
卒業生成績優秀者記念品代		34,884
教職員との懇親会費		57,700
振込手数料		14,216
慶弔費		65,000
同窓会協議会会費		5,000
雑費		2,258
次年度繰越金		567,853
合計		1,295,158

2019 年度予算案

【収入の部】	予算
前年度繰越金	567,853
年会費	375,000
懇親会費	120,000
寄付金	250,000
校友会代行手数料	16,000
受取利息	―
合計	1,328,853

【支出の部】		予算
一般通信費	郵送料	2,000
一般印刷費	コピー代・名刺印刷	10,000
消耗品費	事務用品	1 ,000
会報発行費	会報 6 号印刷費	110,000
	同窓会通信 17 号印刷	60,000
	諸雑費	
	計	170,000
会報発送費	会報 6 号発送費	14,000
	同窓会通信 17 号発送	16,000
	計	30,000
総会開催費	懇親会費	90,000
	謝礼	12,000
	計	102,000
忘年会費		70,000
ホームページ運営費		140,000
広告掲載料		40,000
卒業生成績優秀者記念品代		35,000
教職員との懇親会費		60,000
振込手数料		15,000
慶弔費		65,000
同窓会協議会会費		5,000
雑費		3,000
次年度繰越金		580,853
合計		1,328,853

経営学部同窓会

2019年
定期総会・懇親会のご案内

日時　2019年6月22日（土）
場所　法政大学 市ヶ谷キャンパス　総会会場　外濠校舎4階S405教室
　　懇親会場　富士見坂校舎 地下1階 富士見坂食堂
　　（JR・地下鉄/市ヶ谷・飯田橋下車）

［第１部］　**2019年定期総会**（14:00〜15:00 予定）
　　総会会場　外濠校舎4階S405教室
　　2018年度事業報告・会計報告、2019年度事業計画（案）など
［第２部］　**懇親会**（15:00〜17:00 予定）
　　懇親会場　富士見坂校舎地下1階 富士見坂食堂
　　総会参加者、教職員、学生、ゼミOB・OG など
　　会費 3,000円 (除 在校生)

連絡先　法政大学経営学部同窓会事務局　〒102-8160　東京都千代田区富士見2-17-1
　　法政大学　ボアソナード・タワー17階
URL http://www.houseikeieidousoukai.com/
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ:info@houseikeieidousoukai.com

事務局だより

杉山　孝（1987年卒）

２００１年当時、清成先生が総長の時に話された「安定志向がもっとも不安定」と言われた言葉は、今でも私の座右の銘となっている。

その当時は、日本経済というカテゴリーに絞っても、毎日のように新聞紙面には千人規模のリストラの記事が目に入る。失業率５％、ＧＤＰマイナス成長、景況感指数の悪化、そごうやマイカルの破綻、総合商社が減資により専門商社へ移行し活路を見出していた。系列を超えた業務提携、業界再編、変化をあげればきりがない時代であった。バブル期を経験した自分達の世代にとって、予想しない事実が続き、身震いした。当時、安定就職先と言われた都銀は、不良債権処理に公的資金の注入を受け、中堅生保がどれだけ外資の傘下に入ったか。しかも、身近な人や大学の先輩・同期・後輩がその渦中に置かれていた。混沌とした時代に生き残るため、大学の研究・教育も変わらないはずもなく、新たなビジョンを大衆に示さねばならない、そんな時代だからこそ清成先生の言葉はとても響いた。

大学の使命の一つに、在校生・卒業生、社会のためにも永遠に存続しなければならない。その責任は卒業生も課せられているのではないか。清成先生の言葉が、改革者及び重責者ゆえに新たなビジョンの発掘を熱く訴えていたが、現在にも通じるものがある名言である。

どうか卒業生の皆さんも、同窓会等を通して母校に力をかしていただきたくお願いいたします。